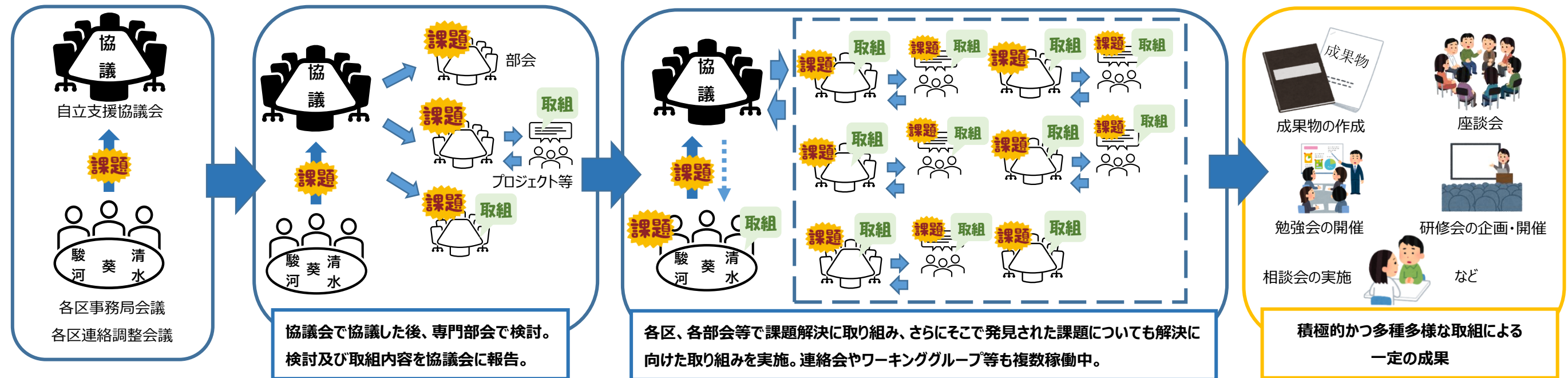



【自立支援協議会等設置当初からの経過 イメージ図】



※各区、各部会の報告書参照

一方で取組による課題も・・・

マンパワーの問題

- マンパワーの不足
- 課題数の増加、それに伴う
取組量の増大により、新たな課題に
取り組む余力がなくなりつつある。
- 一部の人への負担増
- 同じ人が複数の取組に呼ばれる等、負担に偏りがある。
- 行政機関（事務局）の限界
- 行政機関にさらなる役割を求める声もあるが、すでに
今の状況ですら通常の業務時間内で対応しきれず、時間
外に取組に関する資料作成等を行うことが常態化してい
る。
- 

取組における問題

- 取組の一部重複**
- 取組の過程で、2 か所から類似のアンケートが同一機関に届く、別々の場所で類似の課題が話し合われる等、どこで何をやっているかが整理されず、重複する。
- 集まりが多い**
- 勉強会、研修会、連絡会等集まりが多く、さらにその打ち合わせ、事前準備等で、相談業務にさける時間が減少している。(全体を総括している基幹相談支援センターの協議会関連対応数(回数/勤務日数):【5月】23回/21日【6月】25回/20日【7月】28回/22日 ※参考:その他の会議等【5月】117回【6月】94回【7月】57回
- 取組によっては、一度始めるとやめることができない**
- 福祉の課題はすぐに解決できるものが少なく、一度始めると長期継続対応となる取組が多々ある。

取組後の問題

- 成果物が一部活用されていない
- 取組によっては、成果物の作成が目標となり、その後活用されていないことがある。理解、利用のプロセスが組み込まれておらず、成果物によっては作成後の取扱いが曖昧になっている。

体制の問題

- 障害福祉分野として課題解決に取り組める全体のキャンペーンが分からず、課題が多数ある中で優先度が不明瞭
- 各所で、気づいた課題にそれぞれのやり方で取り組んでいる。自立支援協議会以外での取組もあり、全体としての把握、優先度の判断が困難になりつつある。